

フッ素樹脂の利用で茶渋低減

[研究のねらい]

- ・葉打機、粗揉機の内部には荒茶製造段階で茶渋が付着し、揉み手圧等製茶条件が変化し良質茶製造の妨げとなる。
- ・機械が大型化するに伴い、茶渋の除去に要する時間と危険度が増している。
- ・機内に付着する茶渋を取り除く方法と、付着しにくい製茶機械を検討するため、揉み手への表面をフッ素樹脂加工したものの効果を検証した。

[研究の成果]

- ・フッ素樹脂加工したものは標準のものに比べ、茶渋の付着量が少ない。
- ・フッ素樹脂加工した揉み手へらを使用することにより、竹だくに付着する茶渋量が少なくなる。
- ・フッ素樹脂加工した揉み手へらに付着した茶渋は、粗揉回数を重ね付着量が増加すると粗揉工程中に落下するため、標準のものに比べはやめの除去作業が必要である。

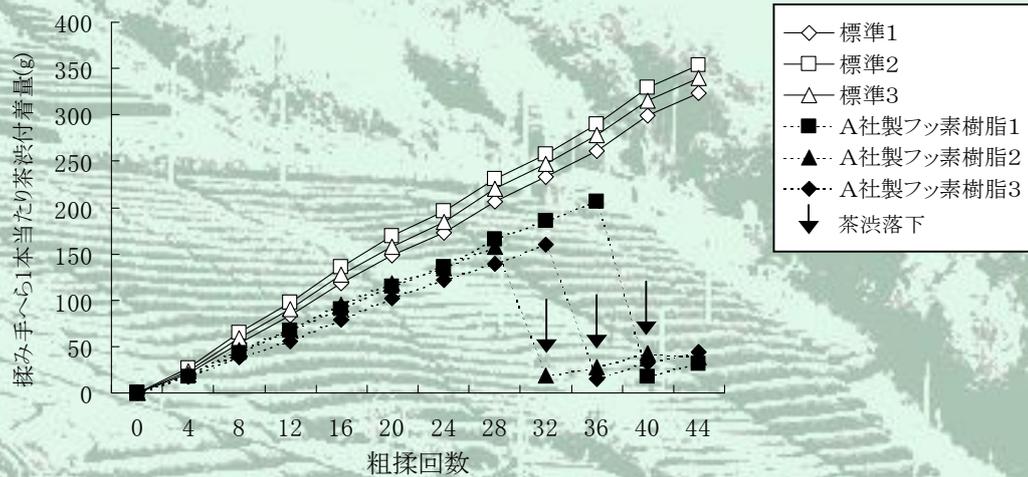
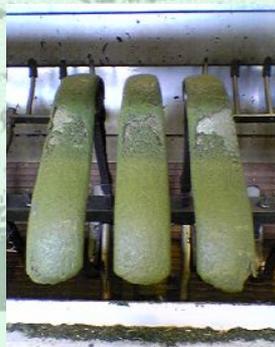


図 揉み手へら個別茶渋付着量



揉み手へらに付着した茶渋



竹だくに付着した茶渋



フッ素樹脂加工した揉み手へら

問い合わせ先 新商品開発(加工) 0548-27-2886
代表 0548-27-2880
E-mail: ES-kenkyu@pref.shizuoka.lg.jp